

## 課題

- 空港利用者の多くが金沢や福井方面への直行バス等を利用している現状にあり、空港利用者をもっとまちなかに誘導するため、観光・交流面の強化などに加え、特に「新幹線駅⇔空港間を直結する快適・スムーズなアクセスの実現」が課題となっている



## 課題解決に向けた取組

(写真・図：小松市提供)

- 開業予定の新幹線駅と約4.4kmの至近距離に位置する小松空港との相乗効果で“北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」”を推進する

## 駅-空港間シャトル暫定供用

- ・北陸新幹線小松駅開業を第1ターゲットとして、小型・多頻度の**自動運転バス(暫定レベル3)**による移送サービスを開始
- ・公共交通における**レベル3**達成のため、日野自動車(株)のほか、金沢大学等との協働で、予定ルート上での実証実験、必要となるインフラ整備を実施
- ・暫定供用開始に向け、**レベル3対応の自動運転バス**及び運行管理システムを導入

## 駅-空港間自動運転シャトル本格運行

- ・技術開発の進展に応じた最も早い時期において、**レベル4自動運転バス**を社会実装し、ドライバー不足に対応した多頻度化を実現
- ・そのため、上記**レベル3**暫定供用を1つの通過点として、**レベル4化**を目指した取り組みを継続
- ・本格運行に際し、先行導入車両の**レベル4化**、**レベル4自動運転バス**の追加、運行管理システムの強化を予定

## 推進体制

地方公共団体  
小松市・石川県

民間事業者  
日野自動車(株)・ジェイ・バス(株)・  
西日本旅客鉄道(株)・  
北鉄加賀バス(株)・小松商工会議所

小松市  
未来技術  
地域実装協議会

ハンズオン支援

大学  
国立大学法人金沢大学・  
公立小松大学

国  
警察庁・総務省・国土交通省

現地支援責任者  
(北陸地方整備局)

2021年度の  
主な取組

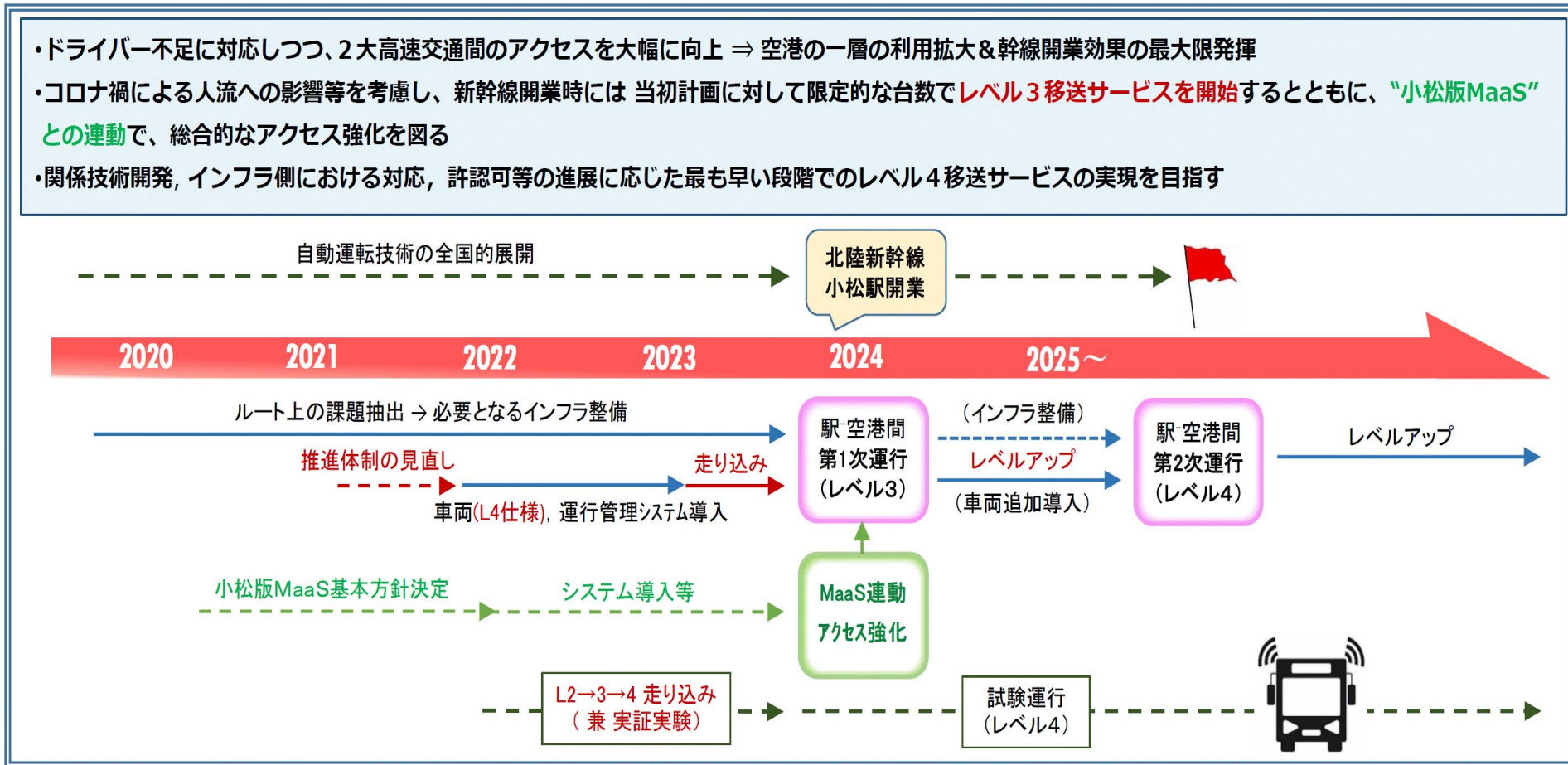
- 11月に第2回小松市未来技術社会実装推進協議会を開催し、事業の進捗状況及びコロナ禍による事業計画の一部見直し等を報告し、承認を得た

取組内容

(写真・図：小松市提供)

推進体制の強化を通じた自動運転バス社会実装スケジュール（概要）

- ・ドライバー不足に対応しつつ、2大高速交通間のアクセスを大幅に向上 ⇒ 空港の一層の利用拡大&幹線開業効果の最大限発揮
- ・コロナ禍による人流への影響等を考慮し、新幹線開業時には当初計画に対して限定的な台数で**レベル3 移送サービスを開始**するとともに、“**小松版MaaSとの連動**”で、総合的なアクセス強化を図る
- ・関係技術開発、インフラ側における対応、許認可等の進展に応じた最も早い段階での**レベル4 移送サービスの実現**を目指す



## 取組内容

(写真・図：小松市提供)

## J R小松駅～小松空港間自動運転実証実験 (2020年9月17日～9月18日)

- 小松市では、北陸新幹線小松駅開業を機に、JR小松駅～小松空港間のアクセスをさらに向上させるための方策について研究中である
- 実走行予定ルートにおいて、金沢大学による自動運転実証実験を実施し、市内における自動運転技術の認知度を高めるとともに、走行環境やインフラの課題等を検証
- 実証実験と同時に小・中・高・大学生を対象とした金沢大学菅沼教授による自動運転の講演会を実施

## 《 実験の概要 》

- ① 名称 JR小松駅・小松空港間自動運転実証実験
- ② 実施主体 小松市、国立大学法人金沢大学
- ③ 日時 令和2年9月17日(木),18日(金) 10:00～16:00
- ④ 走行ルート JR小松駅 (サインシルズこまつ) ～小松空港間 延べ13往復
- ⑤ 走行レベル 自動運転レベル3  
(条件付自動運転・・・システムがすべての運転操作を行うが、システムからの介入要求等に対してドライバーが適切に対応する)
- ⑥ 乗車予定 ドライバーのほかに片道ずつ1名乗車  
市、市議会、経済界、各関係機関、市内中学生、高校生、大学生の各代表 計26名
- ⑦ その他 実験に際し、特別な信号制御・車線規制等は不要

自動運転実証実験走行ルート (JR小松駅～小松空港)



講演会チラシ

